

# エクストリームチャレンジ in 四国の右下 2016

## ■オープンクラス(フル) 優勝チームコメント

勝野人 鈴木 幹久さん

### 【チーム結成】

アドベンチャーレースの世界に飛び込んで8年目を向かえた今年。エクストリームシリーズへの参戦当初は、入賞どころか完全完走すらできないことも多かった。その間、道向修率いるチームコナ・ウインのメンバーとして競い合いながら少しずつ頭角を表し、シリーズ戦3連覇など、コナ・ウインの知名度はかなり上がってきていると自負している。

しかしながら、自分の体力は年齢とともに徐々に衰退し、「チームには迷惑をかけたくない…」という気持ちとは裏腹に、ここ数年のレースでは、道向キャプテンに引きづられ、ボロボロになりゴールする苦しい展開が続いていた。その苦しさから逃れようと、近年ではコナ・ウイン以外のチームでレースに出ることがしばしば。今年においては、自らがコナ・ウインで年間登録したものの、ついに一度もコナ・ウインメンバーとして出場することはなかった。かわりにメンバーとして活躍したのは、今年チーム女性メンバーのまきちゃん(東村真樹子)が今年めでたくゴールしたそのお相手、東村さん(東村宏)だった。アドレース出場者としては恐らく最年長ながら、昨年ハワイアイアンマン・ワールドチャンピオンシップに出場した強者である。かくして、私が出場しなかったコナ・ウインは4年ぶり4度目の年間チャンピオンに輝き、四国大会へと招待されたのであった。

一度も出場していない私が、コナ・ウインメンバーとして四国に行くのははばかられ、出場を見送るつもりでいたところ、優しいチームメンバーが他のメンバーを見つけてくれ、一緒に出場させていただくことになった。そんないきさつで、結成されたのが今回のチーム「勝野神」である。

今回の優勝に大きく貢献したメンバーのたけぷー(武井正幸)は、自らの趣味が「地図を見ること」というほど地図読みの特化型。近年では、たけぷーが出場するレースで、のきなみ優勝し連覇記録を更新。今年8月にアイルランドで開催された国際大会「Itera Expedition Race」にもチーム「風神雷神」の中心メンバーとして出場した、今や世界のたけぷーだ。

そして、もう一人のメンバーである“たかみー”(高見幸司)は、地元高松で、人々の命を日々守っている消防士である。その消防士のメンバーで結成されるチーム「野猿」といえば、何度も四国大会を制覇している強豪チーム。

そのキャプテンを務めるたかみーは、自らを「親近感の塊」と言うほど、フレンドリーで面倒見のいい強豪アスリートである。

この初めて組む3名がそれぞれ所属しているチーム名から、「コナ・ウイン」の”勝”、野猿の”野”、風神雷神の”神”を一文字づつとって「勝野人(かつやじん)」が誕生した。

### 【レーススタートまで】

レース前日の金曜日、たかみー以外の東京、神奈川在住のメンバー5名(東村夫妻、道向さん、たけぷー、私)は、それぞれの仕事を終えて羽田に集合、19:05発最終便で徳島へ向かった。

実は、私の姉家族が徳島の在住で、旦那様が眼医者を経営していることもあり、かなりリッチな生活をしている。4年前もお世話になったが、今回は空港まで新車の高級車で出迎えてくれた後、徳島駅近くの焼肉店で美味しい肉をいただいたのち、姉家族が住む4階建の自宅を訪れ、ご主人がワインセラーで大切に保管している高級ワインをレース当日午前1:00まで堪能させてもらった。

翌日レンタカーを借りて、宴会用アルコールなど買物を済ませた後、午前11:00にまぜの丘に到着。もりもり夫妻、隊長などこれまでにない豪華スタッフに驚きながら、受付、準備を済ませブリーフィング。そして13:00、いよいよ2日間のレースが始まった。

### 【レース1日目】

まずは、チームチャレンジ。約100m先にばらまかれたクイズが書かれてある紙を拾って回答できれば次へ進めるというもの。しかし、3分の1は、「ハズレ」があるという。その1回目、コナ・ウインは「四国で流れている河川のうち徳島県から始まっている川は」の三択クイズに正解。トップでCP1へと向かう。一方、我々は、1回目でまんまと「ハズレ」を引いてやり直し。2回目で「尾崎紀世彦」は海陽町の出身である」の〇×選択問題に、たかみーの気合の気合一発「マル！」で見事クリアー。

CP1のカヤック場所である海老ヶ池までは、ダッシュで丘を下ったあと、いきなりたかみーの地図読みがさく裂。ショートカットのルートから左右の分岐を左へ。と、山が立ちはだかり一巻の終わりかと思った瞬間、小さなトンネルを発見。この最短ルートで一気にトップに立つと、そのままカヤックのスタートをきった。

海老ヶ池のカヤックは、シングルにたけぷー、タンデムの前が私、うしろにたかみーという布陣。県下の池沼は浅川湾に通ずる汽水湖で魚が豊富らしい。まだちょっと紅葉は早かったが周囲の美しい山の木々と透明度の高い水に解放感いっぱい楽しいライドだった。ポイントを三か所まわり、この沼に住んでいない鳥「ツバメ」を選択するクイズに正解。次のポイントへと進んだ。

CP2からは、この地の東端に位置する半島をめぐるルート。一旦北よりのコースを進むと、海岸へつながる砂地まじりの断崖に出た。ここは一步踏み外すと転落の危険があるため、一旦藪の中を下ると、CP3へのルートを確認しゲット。そこからCP4へのルートがこの日の明暗をわけるポイントだった。低い藪に覆われたルートは尾根と谷の区別すらつかない困難な状況だった。しばらく立ち止まり、老眼で細かい等高線が見えづらく、ポケットから拡大鏡をとりだそうとすると、たけぷーが、かがんだ木の隙間の向こうに「尾根が見えます」と小声でつぶやいた。しかし、私にはどうみても尾根らしきものは見えない、「えっ、これ行くの？」と思ったのもつかの間、「行ってみましょう」とたけぷーが進んでいく。その後ろに続いて15メートルほど進んだところだろうか、はっきりと尾根とわかるルートに出て、なんなくCP4をゲットした。この神がかったたけぷーの地図読みとルートファインディングは圧巻だった。

CP6はリバートレッキングで、自然の川というよりは、人工的な用水路を約1.5kmを北上するルート。ライジャケの着用義務だったが、最深でも腰程度だったのと、比較的水がきれいだったため、快適に進むことができた。途中コースの脇の土手を数人の子供たちが追いかけては先回りして、「がんばれー！」と応援してくれる。こちらでも応じて元気をもらう。この非日常がたまらなく楽しい。

リバートレッキングから続くCP7からCP12まではトレッキング。このエリアを日没までにクリアできるが、1日目最大のポイントと見ていた。山間エリアへのアプローチ時点で15:00が迫っていたため、あと2時間程度が勝負だ。標高の高い所でも180m以下だったが、シダとイバラの藪が立ちはだかり思うようには進めないルートがあり苦しんだ。しかし、ここでもたけぷーの的確な地図読みとコースどりに助けられ、日没まえに山を抜けることができた。

あとは、まぜの丘まで7キロ程度の道のりを3人で会話しながらゆっくりと進み17:15にゴール。振り返ってみればCP1へ向かう途中で先頭に立ってから一度もトップをゆずることのない完璧な1日目のレースだった。続く二位は、我々がゴールしてから約25分、コナ・ウインとサンコンズがほぼ同時にゴール。ラストのまぜの丘までの長い上りは、ほぼ全力で走ったらしい。

1日目の夜は、地元の方々やスタッフによる暖かいおもてなしが待っていた。地元の”阿波尾鳥”を始め、食べきれない程の肉と野菜がふるわまれ、1日目の疲れを癒してくれた。今回地元野猿チームは、初出場を含め若手のメンバー構成で、他に2チームが出場していた。かつてレースで互いに競いあったチームと、こうして同じテーブルを囲み友好を深められるのは嬉しい限りだった。

この日は、まきちゃんが予約してくれていたコテージに5人で宿泊した。この「まぜの丘」キャンプ場は、徳島の南端海陽町で、太平洋を望む小高い丘に位置する自然豊かなロケーションが魅力だ。スタート、ゴールと同じ場所で木のぬくもりを感じながら仲間と過ごす時間が最高に楽しかった。

## 【レース2日目】

牟岐線の浅川駅から2つめの終点駅、海部駅へ移動しここから2日目のレースが始まる。6:25の始発電車には、ヘルメットをかぶり、レーススタイルの選手たちしか乗車していない2両編成ローカル線の光景は異様だった。

海部駅でのブリーフィングを終え、午前7:00にレーススタート。まずはCP1をめざし、海沿いの愛宕山へと登っていく。その後、CP2からは那佐湾の海岸線を約1.5km進むコースタリング。「このルートは楽しかった」というたけぷーと、それに続いたかみーとは対照的に、昨日山でひねった足が心配な私は、ビクビクでかなり遅れをとってしまった。

なんとか、カヤックのスタート地点までたどりつき、昨日と同じ編成で、那佐湾へと漕ぎ出していく。快晴で、風もほとんどないベタ凧の中、美しい風景を楽しみながら対岸戦を進むとまもなくポイントを確認。ここはたけぷーにまかせ、早々に折り返し、穴喰浦(ししくいら)の対岸へと向かった。

ここからのトレッキングは、「勝野神」にとっての最大のピンチを迎えることになる。

穴喰浦の半島のつけ根にあるCP5までは、南寄りの尾根を進むが、CP5へ降りる西側の急こう配を避けるため、一旦那佐湾への谷を降りるのがセオリーだ。しかし、ピークとコルを繰り返す尾根ルートは距離感が掴めない上に、北側にのびる同じような谷がいくつも現れるため混乱する。

「そろそろCP5に近づいたんじゃない？」不用意に発した私の一言が、たけぷーの精密機器を微妙に狂わすことになってしまう。

ここだと決意して下った谷には、途中からきれいなトレイルルートがあり、気持ちよく下っていく。湾まで下りきり、そこから湾沿いを進もうとするも、崖に阻まれてしまう。やむをえず、降りてきた谷を戻りトラバースぎみに西へ進むとまた、大きな谷となるが、湾内に浮かぶ双子島の位置から見てもまだCP5は遠い。ふたたび谷を戻ったところで振り返ってみると、湾沿いを進んでいくチームが見えた。コナ・ウインの3人だ。後から聞いた話では、コナ・ウインも同じ手前の谷を下り。そのまま腰まで水につかりながらCP5まで向かったそうだ。実に3回目のコースタリング？しかもライジャケが一番必要だったと思われる。

我々がトラバースを繰り返した結果、CP5に到着すると、トップとは15分もの差がついていた。

CP6からCP10はトレッキング。それほど高い標高ではないが、昨日に続きシダとイバラの藪攻撃が待ち受けていた。それでも、前を行くチームを徐々に追い詰めると、CP8では、コナ・ウイン、サンコンズと3チームが一緒になった。そしてその先頭を行くのは、やはりたけぷー。最善のルートを素早く見つけ、どんどん進んでいく。その後ろをピッタリつけば、ある程度ルートは確保できるが、置いていかれると自分も藪漕ぎしなければならず、時よりイバラに捕まってしまう。「あーっ、つかまったー！」としばしば叫ぶと、そこには人の命を守る救世主、後ろについたかみーが、イバラを掴んで、すかさず解放してくれる。こんな時いつものチームなら「うるさい！」と一喝されるのが常。これほど優しさを感じた瞬間はこれまでになかった。

CP10では、この3チームがほぼ同時に抜け、残り2つのCPを経由してゴールへと向かう。しかし、スピードの速さでは、サンコンズ、コナ・ウインにはかなわない。あっという間に先を行かれてしまう。しかし、あせらず残りのクイズポイントを確実に獲得し、ひたすらオンロードを辿りゴールへと向かう。最後のまぜの丘までの上りも楽しく会話しながらゆっくりと上ると、栄光のゴールテープが待っていた。

後から聞いた話では、サンコンズとコナ・ウインは、ゴール手前で鉢合わせとなり昨日に続けてデッドヒートとなったらしい。我々のチームとはそれほどタイム差はないと思いきや、2日目は14分差がひらいたため、けっこう詰められていたことが判った。強豪チームをあなどってはいけないと反省。

ともあれ、これまでにない楽しい2日間のレースに加え、優勝といううれしいご褒美がもたらされたことは、最高にうれしかった。

終始先頭でチームを引っ張り、地図読みの極意を教えたたけぷー。そしていつもチームを和ませ、時にアグレッシブな走りをみせてくれたたかみー。初めて組むとは思えない、素晴らしいチームのメンバーに入れてもらったことに心より感謝したい。

そして、私を四国に連れて行ってくれた、東村さん、まきこさま、道向さん、ほんとうにありがとうございました。これで心置きなくチームを卒業することができます。

……、うっそで一す！！（世界の果てまでいってQ風）

四国の楽しみは、レースだけにとどまらず、レース後は高松に移動して、野猿チームが宴会をセッティングしてくれた。これで三夜連続の大宴会である。ふだんお酒をのまない私は、ほぼ半年分のアルコールを入れたといっても過言ではないほど、楽しく飲み明かすことができた。

初めて会話する野猿のみなさんは、ほんとうに親しみやすく歓迎してくれたおかげで、また来年もぜひこの地を訪れたいと思ったのは言うまでもない。

### 【レース3日目】

どんなに飲んだとしても、翌日のレースになると目の色が変わって、ゴールを目指すのが強豪チームたるゆえんだ。

この宴会の後、まきちゃんから「うどんツアーに行く人は明日午前7:00ロビー前集合」の呼びかけに、スタッフでお世話になった市川さんを含めた6人全員が揃った。3日目のレース、「高松うどんツアー」のスタートである。事前に、野猿のみなさんから、お勧めのお店と食べ方を伝授された一行は、まずたけぷーの地図読みで、CP1「さか枝」に到着。この後何軒もまわる予定なのに、まきちゃんと道向さんは、いきなり「かけ中」を注文。スタートから全開だ。通勤前で込み合う地元の方に混じって素朴な麺で朝の腹ごしらえをした。

CP2は地元でも超人気の「がもうどん」。ここは、「きつねをトッピングでのせよ」と野猿からの指示書がある。かけ150円、きつね100円の安さで讃岐の美味しさと濃厚なお味のきつねを堪能させていただいた。

CP3の指示書には、「温玉」、「つゆなし」、そして「不機嫌なおばちゃんに注意」とある。このポイント「たむら」に入ると、確かに不機嫌そうなおばちゃんが窯にむかってもくもくと作業していた。対照的に人当たりのいいおじちゃんにうどんを注文、製麺機から出てきたばかりの麺をゆでてもらった。

ふと、おばちゃんに気を取られ、大きな器に入っているめんつゆをドバドバかけてしまう、痛恨の指示書間違えた。やむを得ず、まずめんつゆを飲みほし、温玉、しょうゆ、そして冷蔵庫からパルメザンチーズをふりかけ、カルボナーラ風うどんを味わった。これは常識をくつがえす絶品の味だった。

さらに常識をおおしく覆されたのは、次のCP4「はしもと」だった。事前にコンビニで、人数分のビニール袋を購入して向かった先は、比較的大きな県道にぽつんとたたずむ1件の民家。うどんの文字は一切なく、居たのは椅子にぽつんとすわったおばあちゃんだけ。注文すると、茹でた麺が人数分ビニールに入って出てきた。味は醤油ビンに入っためんつゆらしきもののみ。1玉70円という破格の値段の麺は、老夫婦の愛情が詰まった歯ごたえのある素朴な味わいだった。

お腹を満たした一行は、本ルートからそれて、こちらも野猿ご推薦、「ふじかわ牧場」のソフトクリームをいただいた。平日ということもあり客は我々一行のみ。それでも牛のきぐるみっぽい衣装を着たおばちゃんが出迎えてくれた。狭い敷地内には、牛、馬、羊、うさぎなどがゆったりくつろいでいて、その姿に癒された。その後、さらにお腹をすかせるため、近くの温泉に入り最終ポイントに備えた。

3日目ラストのCPは、高松空港近くの「もりやうどん」。ここは「かき揚げ」を注文せよとの指示。気持ちは食べる気まんまんだったが、かき揚げ大を注文したのは道向さんのみ。私は小かきあげ、残りのメンバーは小をシェアしていただいた。

大満喫の3日目は、レンタカーを返却し高松空港がゴール。楽しい楽しい四国の旅にいよいよ幕が落とされようとしていた。

【最後に】

このすばらしいレースを演出していただいた、我部さんはじめ豪華スタッフの皆様、ご協力いただいた地元の皆様、本当にありがとうございました。一緒にうどんツアーをまわったスタッフの市川さんにも大変お世話になりました。

そして共に2日間のレースを楽しませてくれた、たけぷー、たかみー、また絶対一緒に組もうね！

最後に、何度も繰り返しますが、四国に連れて行ってくれた、束村さん、まきこさま、道向さん。お誘いいただかなければこの夢のような4日間はありませんでした。本当にありがとうございました！！